

今回のイベント「スイーツ開発で北九州の魅力発見!!」にアドバイザーとして参加した、北九州市立大学地域創生学群内田ゼミの大学2年生12名に話を伺ってきました。

オンラインミーティングでの苦労、北九州に関する新たな発見、そしてチームメンバーとの関係性が深まった話など、参加した学生たちはさまざまな感想を持っていました。首都圏の学生と接したことで、たくさんの刺激を受けたという声も。北九州市立大学の学生にとっても、実り多い体験となったようです。



Q. 今回のイベントで得られたことを教えてください。

大前 奈穂さん

オンラインでのやり取りは「表情」が大切だと感じました。「正面を向いて話す」といった小さなことでも、全員で気をつけることで話の盛り上がるようになったことに驚きました。今回のイベントを経て、初めての人でも心を開けるような雰囲気づくりができるようになったと思います。

川端 梨玖さん

いつもゼミで学んでいるので北九州のことを割と知っていると思っていましたが、実際にワークショップが始まると改めて調べることも多く、北九州の魅力を再発見しました。

河村 ゆり子さん

最初から最後まで対面で会うことなく終わったワークショップは初めてでしたが、地域創生学群の授業や実習で行ったグループ活動で培ったチームビルディングのスキルを発揮することができました。

初めは緊張や不安もありましたが、コロナ禍における大学生の悩みも共有できましたし、東京の大学生がコロナ禍でも何かに取り組もうという姿勢に感心しました。

生野 翼さん

初対面の人たちとプロジェクトを進めていく中で、コミュニケーション能力が得られました。これまでに比べ、少し能力が上がったように思います。

丸田 理華子さん

アドバイザーという立場だったので、仲間が求める情報を適切に伝えなければならず、改めて北九州のことを知る機会になりました。今後同じような立場になったときに、この経験を生かせると思います。

Q. 今回のイベントで印象に残った出来事がありますか？

古賀 成晃さん

東京の同世代の学生とは、流行を取り入れる姿勢が違うと思いました。社会に出ると大学以上に多様な人が入り混じると思うので、価値観をすり合わせるためのコミュニケーションの必要性を強く感じました。

高木 政宗さん

首都圏の大学生は標準語ばかりしゃべるかと思ったら、案外そうでもなくて普通の大学生なんだなという印象を受けました。最初は緊張しましたが、打ち解けていくにつれ似たような言葉遣いが目立つようになり、みんな変わらないんだなと思いました。

田上 愛梨さん

私が入っていたチームは優秀賞に選ばれたのですが、賞状に私の名前がなかったんです。チームのメンバーが名前を入れてほしいと頼んでくれたみたいで、私の名前が入った新しい賞状を作り直してもらいました。チームのメンバーと仲良くなれたと感じた出来事でした。

森 優里子さん

チームのメンバーが年上ばかりだったので不安でしたが、積極的に話しかけてくれたのでとても助かりました。オンラインのミーティングでは、画面をオフにしている人が多かったのですが、自分の提案で何人か顔出ししてくれるようになったことが印象的でした。

四辻 帆乃香さん

チームのメンバーは、北九州のことを私以上に調べてくれました。魅力を知ってもらったことで、北九州に対する印象が上がったんじゃないかと思います。もし案内するとしたら、私たちが考案した作品のモチーフにした皿倉山に行ってみたいです。

Q.今後取り組みたいことがありましたらお聞かせください。

下田 千景さん

今後は他の地域に行って魅力を見つけたり、他の客観的な意見を取り入れて自分の知識を増やしたりしたいと思います。というのも、今回のイベントで私たちが気づけない北九州の魅力を知ることができ、考え方の幅が広がったと思うからです。

橋本 理来さん

今回参加していたメンバーには高いスキルを持つ人もいて、大いに刺激を受けました。残りの学生生活で、他地域の学生と交流できるワークショップに参加するなど、興味のあることに積極的に参加して経験を積んでいきたいと思いました。

今回のイベントは、北九州市立大学の学生にとっても実り多い体験となったようです。ワークショップのことを思い出しつつ、言葉を選びながら感想を述べていたのが印象的でした。内田ゼミ2年生の皆さん、ありがとうございました。